

御中

防水工事

**施 工 要 領 書**  
**タケシールPC eco CR-2T工法**

**I. 総則**

- 1) 本施工要領書は、工事におけるポリマーセメント系塗膜防水工  
事に適用する。
- 2) 防水工事施工にあたっては、本要領書に従うものとし、当該記載事項に関して変更が生じた場合、又は記載なき事項については、工事係員又は監督者と協議の上、決定する。

**II. 工事概要**

1. 工事名称 \_\_\_\_\_
2. 所在地 \_\_\_\_\_
3. 元請け業者 \_\_\_\_\_
4. 施工業者 \_\_\_\_\_
5. 工事内容 タケシールPC eco CR-2T工法

**III. 施工業者組織**

会社名  
所在地  
TEL  
FAX  
代表者  
担当者

**IV. 材料メーカー会社組織**

会社名 竹林化学工業株式会社  
(本社・工場)  
〒577-0836 大阪府東大阪市渋川町3丁目1-43  
TEL 06-6721-6165  
FAX 06-6720-7308

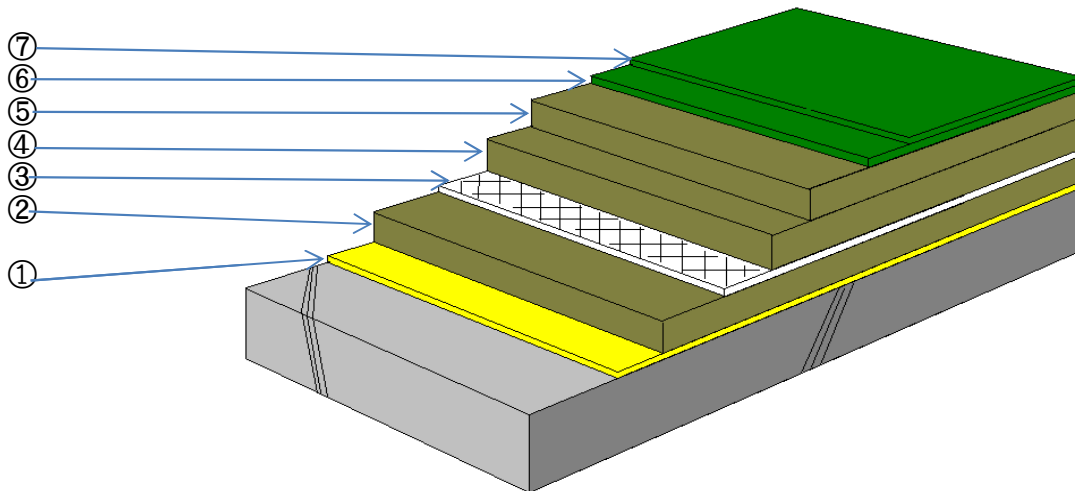
**V. 防水施工範囲**

防水施工箇所	防水仕様	施工数量

## VI. 防水仕様

	工程	使用材料	配合 (kg)	塗布量 (kg/m <sup>2</sup> )	方法	作業間隔
①	プライマー塗布	タケシールPC ecoプライマー		0.2	ローラー、刷毛等にて塗布	約30分～2時間
②	下塗り塗布	タケシールPC eco主剤 タケシールPC eco混和材 水	9 6 1～2	0.8	ローラー、刷毛、コテ等にて塗布	直ちに
③	補強布貼り	補強クロス			下塗り材塗布後、直ちに補強クロスを貼り付け	約3時間～6時間
④	中塗り塗布	タケシールPC eco主剤 タケシールPC eco混和材 水	9 6 1～2	0.8	ローラー、刷毛、コテ等にて塗布	約3時間～6時間
⑤	上塗り塗布	タケシールPC eco主剤 タケシールPC eco混和材 水	9 6 1～2	0.6	ローラー、刷毛、コテ等にて塗布	約3時間～6時間
⑥	上塗り	タケトップ		0.75	ローラー、刷毛等にて塗布	約2～3時間
⑦	上塗り	タケトップ		0.75	ローラー、刷毛等にて塗布	約24時間

※平場と立上りは、同一工法となります。



## VII. 使用材料明細

使用材料	品名	規格	製造業者
プライマー	タケシールPC ecoプライマー	15kg・4kg	竹林化学工業(株)
防水材	タケシールPC eco主剤	18kg・9kg	竹林化学工業(株)
	タケシールPC eco混和材	12kg・6kg	竹林化学工業(株)
補強布	補強クロス 1m幅	50m	竹林化学工業(株)
トップコート	タケトップ	20kg・5kg	竹林化学工業(株)

## Ⅷ. タケシールPC eco CR-2T工法施工要領

### 1. 施工着手前の確認事項

【防水工事までに下記の事項につき確認】

- 1) 平滑で、亀裂・浮き・目違い等のないこと。
- 2) 水切り、打ち継ぎ目地などが仕上がっていること。
- 3) 水勾配は、下地スラブでとる。
- 4) レイタンス、塵埃・油脂類・汚れ・錆等がないこと。
- 5) ルーフドレン、パイプ等が堅固に取り付けられていること。
- 6) 欠損、脆弱化部分がないこと。
- 7) 出隅、入り隅は通りがよいこと。

### 2. 標準施工仕様

#### 2-1 【防水施工手順】

- 1) 下地処理
- 2) プライマーの塗布
- 3) 下塗り材の塗布
- 4) 補強布の貼り付け
- 5) 中塗り材の塗布
- 6) 上塗り材の塗布
- 7) トップコート1回目塗布
- 8) トップコート2回目塗布

##### 2-1-1 下地処理

- 1) ゴミ・砂・油脂分等の付着物は十分に除去し、清掃する。
- 2) 鉄筋・鉄線等の突起露出部分はサンダー等で除去し、平滑な面とする。
- 3) レイタンス及び、金属部分の錆はサンダー等で除去する。
- 4) 浮き水はウエス等で拭き取る。
- 5) クラックは状況に応じVカットし、シーリング材にて充填補修を行い、補強クロスによる塗膜補強を行う。
- 6) 役物まわりで塗膜補強を要する部分は、補強クロス、堅練り材等で補強する。

##### 2-2-2 プライマーの塗布

- 1) 使用する前に、缶を逆さにし内容物が均一な状態となるようよく振ります。
- 2) タケシールPC ecoプライマーを原液でローラー、刷毛等を使用し塗布する。  
特に役物まわりは念入りに、場合によっては2～3回塗布する。
- 3) 作業間隔は、夏季(25℃)で、約30分、冬季(10℃)で、約1～2時間を目安とするが、施工環境や気象条件にて変化するので、歩行可能を確認の上、次の工程に進む。

塗布量	0.2kg/m <sup>2</sup>
作業間隔	30分～2時間

##### 2-2-3 下塗り材の塗布

- 1) タケシールPC eco主剤9kgに対し、水を1～2kg加え十分に攪拌する。
- 2) 主剤、水を攪拌しながら少量ずつタケシールPC eco混和材6kgを加え、ダマが出来ないように、約3～5分程度十分に攪拌し、塗布液を作成する。
- 3) 作成した塗布液をローラー又は、ラスタ刷毛、左官刷毛等にて均一に塗布する。

塗布量	0.8kg/m <sup>2</sup>
作業間隔	直ちに次の工程へ

・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-4 補強クロス貼り付け

- 1) 補強クロスを貼り付け面寸法に合わせてカットしておきます。
  - 2) 下塗り材塗布後、直ちに補強クロスをしワよらない様に貼り付けます。
- |      |    |                  |
|------|----|------------------|
| 作業間隔 | 夏季 | 約3時間(気温25℃として)   |
|      | 冬季 | 約4～6時間(気温10℃として) |

2-2-5 中塗り材の塗布

- 1) タケシールPC eco主剤9kgに対し、水を1～2kg加え十分に攪拌する。
- 2) 主剤、水を攪拌しながら少量ずつタケシールPC eco混和材6kgを加え、ダマが出来ないように、約3～5分程度十分に攪拌し、塗布液を作成する。
- 3) 作成した塗布液を補強クロスを貼り付け後、直ちにローラー又は、ラスター刷毛、左官刷毛等にて補強クロスにすり込みピンホール穴ができないように塗布します。

塗布量	0.8kg/m <sup>2</sup>	
作業間隔	夏季	約3時間(気温25℃として)
	冬季	約4～6時間(気温10℃として)

・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-6 上塗り材の塗布

- 1) タケシールPC eco主剤9kgに対し、水を1～2kg加え十分に攪拌する。
- 2) 主剤、水を攪拌しながら少量ずつタケシールPC eco混和材6kgを加え、ダマが出来ないように、約3～5分程度十分に攪拌し、塗布液を作成する。
- 3) 作成した塗布液を補強クロスを貼り付け後、直ちにローラー又は、ラスター刷毛、左官刷毛等にて補強クロスにすり込みピンホール穴ができないように塗布します。

塗布量	0.6kg/m <sup>2</sup>	
作業間隔	夏季	約3時間(気温25℃として)
	冬季	約4～6時間(気温10℃として)

・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-7 トップコート1回目の塗布

- 1) 使用する前に、内容物が均一な状態となるよう機械攪拌します。
- 2) タケトップをローラー、ラスター刷毛等を使用し塗布する。

塗布量	0.75kg/m <sup>2</sup>	
作業間隔	夏季	約2～3時間(気温20℃として)
	冬季	約3～5時間(気温10℃として)

・希釈は清水にて2% (重量比) 以内にてお願いします。  
 ・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-8 トップコート2回目の塗布

- 1) 使用する前に、内容物が均一な状態となるよう機械攪拌します。
- 2) タケトップをローラー、ラスター刷毛等を使用し塗布する。

塗布量	0.75kg/m <sup>2</sup>	
作業間隔	夏季	約2～3時間(気温20℃として)
	冬季	約3～5時間(気温10℃として)

・希釈は清水にて2% (重量比) 以内にてお願いします。  
 ・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

## IX. 検査

### 1. 工事中の検査

- ①施工者は、下記の各工程が終了した時点で「工事中の検査」を行う。
  - イ. 躯体の欠陥部の処理
  - ロ. 中塗り材の塗布
- ②施工者は、検査で不良箇所があった場合速やかに適切な対処を行い、その結果を監督者に報告し、承諾までの高所に放置しない。

### 2. 完了検査

- ①施工者は、施工完了後監督者の立会いの下に完了検査を行う。
- ②施工者は、完了検査において指摘箇所があった場合は速やかに対処し、その結果を監督者に報告し、承諾をえることとする。

## X. 補追

### 安全管理項目

#### 1) 管理・整理

- ①材料の保管・・・直射日光、降雨などを避けることのできる一定の保管場所を確保し、使用材料を保管する。
- ②湿気等を防ぐため、囲い板かシートで覆いをする。
- ③冬季の保管に注意し、0℃以下の場所に置かない。
- ④作業場所・・・作業後には、必ず洗剤を使用して手洗いをを行う。  
に努める。

#### 2) 墜落事故・落下物の防止

- ①足場の点検・・・毎日の始業前に作業足場の柵止め、固定金具、足場板の確認を行う。
- ②高所作業での安全索縄の使用を励行する。
- ③工具等の落下・・・重量のある物体は無論の事ハンマー、スパナ等の工具は足場板上な

#### 3) 火気管理

- ①火気厳禁の表示・・・材料保管場所、作業場所には「火気使用厳禁」表示し、必要に応じてロープによる規制を行う。
- ②喫煙場所・・・指定場所を設置し、指定場所以外での喫煙は禁止する。
- ③電気配線、電動工具のスパーク防止
- ④溶接作業の規制

#### 4) 作業の安全

- ①照明の確保・・・暗所での作業では、十分な照明を確保できるように適切な照明器具を設置する。
- ②換気設備・・・作業場内の換気には、作業環境の保全及び、安全確保のため適切な換気設備を設置する。
- ③安全保護具の使用励行
- ④清潔さ・・・作業者は毎回清潔な物を着用する。

#### 5) その他、本作業場での安全管理規定はこれを遵守する。